

# 及川正博 教授 略歴・主要著作目録

## 学 歴

- 1943年11月15日 神奈川県横浜市に生まれる
- 1962年 4 月 上智大学文学部英文学科入学
- 1967年 3 月 上智大学文学部卒業
- 1967年 9 月 米国ロサンゼルス・ロヨラ大学（現ロヨラ・メリーマウント大学）大学院英文研究科修士課程入学
- 1970年 8 月 同大学同大学院研究科修士課程終了（MAのプログラム修了）
- 1971年 6 月 同大学同大学院研究科修士課程 MA（修士号取得）
- 2009年 3 月 文学（英米文学）博士号取得（上智大学）

## 職 歴

- 1970年10月 ロサンゼルス・テレビ局勤務（非常勤）
- 1971年 7 月 ケンパー保険会社勤務（非常勤）
- 1972年 4 月 ノートルダム清心女子大学文学部英文学科助手
- 1973年 4 月 ノートルダム清心女子大学文学部英文学科講師（1981年 3 月まで）
- 1975年 4 月 岡山大学教養部非常勤講師（1981年 3 月まで）
- 1981年 4 月 立命館大学文学部助教授
- 1984年 4 月 京都産業大学教養部非常勤講師
- 1986年 4 月 立命館大学文学部教授
- 1988年 4 月 立命館大学国際関係学部教授（現在に至る）
- 1996年 4 月 京都大学総合人間学部非常勤講師（2004年 3 月まで）

## 研究歴

- 1989年 9月 米国テキサス大学（オースチン）アジア・アフリカ言語学部客員教授，同大  
学文学部英文学科客員研究員（1990年 9月まで）
- 1997年 5月 米国ワシントン大学（シアトル）英文学部客員研究員（1997年 9月まで）
- 2001年 4月 米国ワシントン大学（シアトル）英文学部客員研究員（2001年 9月まで）
- 2005年 4月 米国ワシントン大学（シアトル）英文学部客員研究員（2005年 9月まで）

## 研究業績

### 1. 著書

1. 『国際化と異文化理解 — 国際摩擦と国際理解 —』（共著），法律文化社，1990年 1月
2. *Ten-Minute TOEFL Listening Exercises*（共著），桐原書店，1993年 2月
3. 『完全対策TOEFLのリスニング』（編著），桐原書店，1994年 2月
4. *Reading Practices for TOEFL and Other Purposes*（共著），金星堂，1996年 1月
5. 『アメリカ作家とヨーロッパ』（共著），英宝社，1996年 4月
6. 『国際化時代の外国語の学び方』（共著），かもがわ出版，1996年11月
7. 『文学にみる親子の葛藤と信頼』（共著），立命館大学人文科学研究所，1999年12月
8. 『越境する資源環境問題』（共著），日本経済評論社，2002年 7月
9. 『アーサー・ミラー劇における倫理性 — 個人と社会の連帯性を巡って —』（単著），金星堂，2008年 9月

### 2. 翻訳書

1. 『スタインベック作品論』（共訳）（*A Study Guide to Steinbeck: A Handbook to His Major Works*, ed. by Tetsumaro Hayashi, The Scarecrow Press, Inc., Metuchen, N.J.,1974），英宝社，1978年10月
2. 『家政学の母エレン・H・リチャーズの生涯』（共訳）（*The Life of Ellen H. Richards 1892 - 1911*, by Caroline L. Hunt, American Home Economics Association, 1958），家政社，1980年12月

### 3. 学術論文

1. 「*A Streetcar Named Desire* — その主人公の解釈をめぐって —」，『ノートルダム清心女

- 子大学紀要』8号, 1973年3月
2. “T.S. Eliot’s *Four Quartets*: An Interpretation,” *Studies in American Literature*, No 10, The Chu-Shikoku American Lit. Society, 1974年1月
  3. “A Memorandum on T.S. Eliot’s Hamlet,” *Kiyo*, Vol. 10, Notre Dame Seishin University, 1975年3月
  4. 「*The Glass Menagerie* の二つの版についての覚え書き — 特にアマンダを中心に —」, *Persica*, No.2, 岡山英語英米文学同人会, 1975年12月
  5. 「*A View from the Bridge*論 — 一幕版と二幕版の比較考察を中心に —」, 『ノートルダム清心女子大学紀要』11号, 1976年3月
  6. 「*A View from the Bridge*論 — 一幕版と二幕版の比較考察を中心に (2) —」, 『ノートルダム清心女子大学紀要』(外国語・外国文学編), 第1巻第1号, 1977年3月
  7. 「Arthur Miller: *The Man Who Had All the Luck* の問題点」, *Persica*, No.4, 岡山英語英文学会, 1977年12月
  8. 「Arthur Miller: *The Man Who Had All the Luck* の問題点 (II)」, 『ノートルダム清心女子大学紀要』(外国語・外国文学編), 第2巻第1号, 1978年3月
  9. 「*All My Sons* 論 (I)」, 『ノートルダム清心女子大学紀要』(外国語・外国文学編), 第3巻第1号, 1979年3月
  10. 「*All My Sons* 論 (II)」, 『ノートルダム清心女子大学紀要』(外国語・外国文学編), 第4巻第1号, 1980年3月
  11. 「*The Crucible* 論 — Miller 自身の悲劇論と関連して —」, 『ノートルダム清心女子大学紀要』(外国語・外国文学編), 第5巻第1号, 1981年 (1981年) 3月
  12. 「*The Crucible* — その伝統的悲劇の側面について —」, 『外国文学研究』55号, 立命館大学人文科学研究所, 1982年7月
  13. 「アメリカ演劇のこと」, 『土曜講座だより』(第92号), 立命館大学人文科学研究所, 1984年4月
  14. 「*A Memory of Two Mondays* 論 — 主題と技法を中心に —」, 『外国文学研究』61号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1984年5月
  15. 「Arthur Miller の翻案劇 *An Enemy of the People* をめぐって」, 『外国文学研究』81号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1988年9月
  16. 「日本の「国際化」と異文化理解」, 『国際化と異文化理解』, 筧 文生・飛田就一編, 法律文化社, 1990年1月
  17. 「『ウインターセット』論」, 『アメリカ演劇』4号, 全国アメリカ演劇研究者会議編集, 法政大学出版局, 1990年3月

18. “A Transformed Hero: Dr. Stockmann in Arthur Miller’s Adaptation of *An Enemy of the People*,” 『立命館国際研究』 5 卷 2 号, 立命館大学国際関係学会, 1992年 9 月
19. ““A Memory of a Long-gone Era”: Initiation and Alienation in Arthur Miller’s *A Memory of Two Mondays*,” 『立命館国際研究』 8 卷 1 号, 立命館大学国際関係学会, 1995年 5 月
20. 「アーサー・ミラーとヘンリック・イブセン — 『民衆の敵』 翻案が意味するもの —」, 『アメリカ作家とヨーロッパ』, 坪井清彦・西前 孝編, 英宝社, 1996年 4 月
21. 「『ヴィシーでの出来事』の主題と技法 — その実存主義的状況劇としての側面 —」, 『立命館国際研究』 10 卷 2・3 合併号, 立命館大学国際関係学会, 1997年 12 月
22. 「大学入試における英文エッセイ・テスト出題の意義とその評価法をめぐって」, 『立命館国際研究』 10 卷 4 号, 立命館大学国際関係学会, 1998年 3 月
23. 「『グレンギャリー・グレン・ロス』論 — 風刺劇としての側面を中心に —」, 『アメリカ演劇』 10 号, 全国アメリカ演劇研究者会議編集, 法政大学出版局, 1998年 4 月
24. 「セールスマンとフォーレター・ワード — 『グレンギャリー・グレン・ロス』におけるデイヴィッド・マメットの劇作意図 —」, 『立命館国際研究』 11 卷 1 号, 立命館大学国際関係学会, 1998年 6 月
25. 「アメリカの家族劇にみられる父と子の葛藤」, 『文学にみる親子の葛藤と信頼』(立命館土曜講座シリーズ 6), 立命館大学人文科学研究所, 1999年 12 月
26. “Summary of the Discussion in Session II of Literature Section on Mark Twain” *Proceedings of the Kyoto American Studies Summer Seminar July 29-July 31, 1999*, Center for American Studies, Ritsumeikan University, March 2000
27. “Crisis in the American Family: A Comparative Study,” with Matthew C. Strecher, 『立命館国際研究』 13 卷 3 号, 2002年 3 月
28. 「アーサー・ミラーの初期未出版劇『悪人ではない』, 『彼らもまた立ち上がる』, 『草なお茂り』(「エイブ・サイモン家族劇三部作」)のテーマと技法」, 『立命館国際研究』 15 卷 1 号, 立命館大学国際関係学会, 2002年 6 月
29. 「経済発展と環境問題」, 『越境する資源環境問題』, 唐沢 敬編著, 日本経済評論社, 2002年 7 月
30. “*All My Sons* as Precursor in Arthur Miller’s Dramatic World,” *Ritsumeikan Annual Review of International Studies*, Vol.1, The International Studies Association of Ritsumeikan University, 2002
31. ““Terror of Failure” and “Guilt for Success”: The American Dream in the Great Depression and Arthur Miller’s *The Man Who Had All the Luck*,” *Ritsumeikan Annual*

*Review of International Studies*, Vol.3, The International Studies Association of Ritsumeikan University, 2004

32. 「南太平洋諸国における環境問題とSPREPの役割」, 『グローバル経済化のもとにおける資源・エネルギー・食糧問題と環境政策』(平成15~16年度科学研究費補助金・基盤研究C(2)研究報告書), 立命館大学資源・エネルギー・食料・環境問題研究会, 2005年7月
33. 『『アメリカの時計』—「大恐慌」と「アメリカの夢」崩壊の叙事劇—」, 『アメリカ演劇』17, 全国アメリカ演劇研究者会議, 2005年12月
34. 『『壊れたガラス』におけるユダヤ系アメリカ人のアイデンティティー」, 『立命館国際研究』18巻3号, 2006年3月
35. 「ナチ・ユダヤ人強制収容所と「創世記」の世界—『転落の後に』における罪と悪の問題—」, 『立命館言語文化研究所』18巻1号, 2006年8月
36. 『『セールスマンの死』のテーマと技法—成功の夢, 父と子の葛藤と「意識の流れ」の舞台化—」, 『立命館国際研究』19巻2号, 2006年10月
37. 『『代価』における大恐慌を巡る兄弟対立の象徴的意味』, 『比較生活文化研究』第13号, 日本比較生活文化学会, 2007年3月
38. 「サッカー・ディベート(六角ディベート)で憲法を闘論—「現行日本国憲法無効論」を巡って—」, 『比較生活文化研究』第15号, 日本比較生活文化学会, 2009年3月

#### 4. 翻訳

1. 「“Arthur Miller: Production of His Work in China” (A Radio Program) —そのトランスクリプションと日本語訳」, 『外国文学研究』69号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1985年12月
2. 「“Arthur Miller and Harold Clurman Discuss *An Enemy of the People*” のトランスクリプションとその日本語訳」, 『立命館国際研究』1巻1号, 立命館大学国際関係学会, 1988年4月
3. 『ブロードウェイ劇と神』(*God on Broadway* by Jerome Ellison, John Knox Press, Virginia, 1971), 翻訳部分—「序章」, 「1. オニール『偉大なる神ブラウン』」, 「2. ワイルダー『我が町』」, 『立命館国際研究』5巻2号, 1992年9月
4. 『ブロードウェイ劇と神』(その2), 翻訳部分—「3. マクリーシュ『ジェービー』」, 「4. ウイリアムズ『牛乳列車はもう止まらない』」, 『立命館国際研究』6巻1号, 1993年5月
5. 『ブロードウェイ劇と神』(その3), 翻訳部分—「5. ミラー『転落の後に』」, 「6. オールビー『タイニー・アリス』」, 『立命館国際研究』6巻2号, 1993年9月

6. 『ブロードウェイ劇と神』(その4), 翻訳部分 — 「7. チェイエフスキー 『ギデオン』」, 「8. 『ヘア』, 『2人ずつ』, 『ハドリアン7世』, 『屋根の上のバイオリン弾き』」, 「9. 結論」, 『立命館国際研究』7巻2号, 1994年10月
7. 「持続可能な発展のための教育 — その起源, 理念および現状 —」, デビット・ピーティアー, 『越境する資源環境問題』第10章, 2002年7月
8. 「グッドニュースで読む世界の動き (ブック1)」, デビット・ピーティアー, 『*Good News* (Book 1) 教授用資料』, 桐原書店, 2007年2月
9. 「グッドニュースで読む世界の動き (ブック2)」, デビット・ピーティアー, 『*Good News* (Book 2) 教授用資料』, 桐原書店, 2007年3月
10. 「世界と向き合うための12章」, デビット・ピーティアー, 『*Confronting the Issues* 教授用資料』, 金星堂, 2009年1月

## 5. 編注書

1. *America: Strengths and Weaknesses* by Paul MacLean, 『アメリカの強さと弱さを考える』, 金星堂, 1987年12月
2. *Tacit Assumptions: Potential Sources of Conflict at the Interface of Culture* by Michael L. Sherard, 『異文化への迷い路』, マクミラン・ランゲージハウス, 1989年12月
3. *Global Challenges: A Critical View of Contemporary Issues* by David Peaty, 『人と地球を考える』, 金星堂, 1991年1月
4. *An Enemy of the People* by Arthur Miller, 『民衆の敵』, 成美堂, 1996年1月
5. *Global Perspectives* by David Peaty, 『地球社会の未来を考える』, 金星堂, 1996年1月
6. *Issues of Global Concern* by David Peaty, 『地球的問題群の背景を考える』, 金星堂, 2002年1月
7. *Good News* (Book 1) by David Peaty, 『グッドニュースで読む世界の動き (ブック1)』, 桐原書店, 2007年2月
8. *Good News* (Book 2) by David Peaty, 『グッドニュースで読む世界の動き (ブック2)』, 桐原書店, 2007年3月
9. *Confronting the Issues* by David Peaty, 『世界と向き合うための12章』, 金星堂, 2009年1月

## 6. 学会報告, コメンテーター, 司会など

1. 「アーサー・ミラーと社会劇」, 日本アメリカ文学会中・四国支部夏季例会 (山口女子大学), 1973年8月

2. 「現代アメリカ演劇と神話 — *Death of a Salesman* と *A Streetcar Named Desire* の場合 —」, 第12回日本アメリカ文学会 (四国学院大学), 1973年10月
3. 「Arthur Miller の *The Crucible* における悲劇性」, 岡山大学英語英文学談話会, 1973年11月
4. 「アーサー・ミラーの演劇観」, 岡山英文学会 (岡山大学), 昭和50年3月
5. 「*The Man Who Had All the Luck* の問題点」, 第16回日本アメリカ文学会 (南山大学), 1977年10月
6. 「*All My Sons* のテーマ」, 第9回中・四国アメリカ学会 (徳島大学), 1980年11月
7. 「*The Crucible* と Miller の悲劇論」, 中・四国アメリカ文学会第11回大会 (広島平和記念館), 1982年6月
8. 「*The Crucible* における伝統的悲劇の側面について」, 日本英文学会第56回大会 (関西大学), 1984年5月
9. 「アーサー・ミラーの演劇観 — 『セールスマンの死』と『るつぼ』を中心に —」, 第1819回立命館大学土曜講座 (立命館大学末川記念会館ホール), 1984年5月
10. 「*A Memory of Two Mondays* の主題と技法について」, 日本アメリカ文学会関西支部11月例会 (立命館大学), 1985年11月
11. 「マックスウェル・アンダーソンの演劇観」, 全国アメリカ演劇研究者会議第4回大会 (法政大学セミナー・ハウス), 1987年6月
12. “A Transformed Hero: Dr. Stockmann in Arthur Miller’s Adaptation of *An Enemy of the People*,” Arthur Miller Conference, ミラーズヴィル大学 (アメリカ・ペンシルバニア州ランカスター市), 1992年4月10日
13. 「サム・シェパードの『埋められた子供』」, 全国アメリカ演劇研究者会議第11回大会 (大津国際交流セミナー・ハウス), 1994年7月2日
14. 「大学入試における英語エッセイ・テストの採点と評価上の問題点」, 外国語による講義の受講可能な言語力の評価に関する研究会 (大学入試センター内), 1996年6月21日
15. 「デビッド・マメットの *American Buffalo* と *Glengarry Glen Ross*」, 全国アメリカ演劇者会議第13回大会 (大津国際交流セミナー・ハウス), 1996年6月29日
16. 「外国語能力をどう高めるか」, 外国語フォーラム: 国際化時代の外国語の学び方第2部第3分科会 (立命館大学末川記念会館), 立命館大学外国語教育ファカルティ・デイベロップメント主催, 1996年11月7日
17. American Studies Seminar [“What’s in a Name?,” by Janice A. Radway (Duke University), “Gender and the Globalization of American Studies,” by Beth Bailey (University of New Mexico), “Counter-Memory in Contemporary Korean American

- Literature and Visual Art,” by Elaine H. Kim (University of California, Berkeley) [立命館大学平和ミュージアム・アカデミア] の司会，立命館大学アメリカ研究センター主催，1999年6月8日
18. 「アメリカの家族劇にみられる父と子の葛藤」，立命館土曜講座（立命館大学末川記念会館），1999年7月10日
  19. The Kyoto American Studies Summer Seminar in 1999, Workshop II of Literature Section on Mark Twain, “Mark Twain’s Sense of an Ending: A View on His Attitude toward Writing at the Turn of the Century,” by Prof. Kazuhiko Goto (Rikkyo University), “Mark Twain’s Ever-Growing Curiosity and Vision at the Turn of the Century: Stories Without an Ending,” by Prof. Yoko Mitsuishi (Toyo University, Junior College) を中心とした分科会Ⅱ（立命館大学平和ミュージアム・アカデミア）の司会，立命館大学アメリカ研究センター主催，1999年7月31日
  20. Kyoto American Studies Special Summer Seminar for Graduate Students, Day I: ① “The Challenge of Teaching *Huckleberry Finn*: Huck Finn, History, and Mark Twain’s Satire,” ② “Mark Twain and African American Voices,” Day II: ③ “*Huckleberry Finn* and 20th Century Literature,” ④ “Interrogating ‘Whiteness,’ Complicating ‘Blackness’: Desegregating American Culture,” by Prof. Shelley Fisher Fishkin (Univ. of Texas at Austin) の司会（立命館大学平和ミュージアム・アカデミア）の司会，立命館大学アメリカ研究センター主催，1999年8月2・3日
  21. 「現行憲法無効論を巡って」南出喜久治（弁護士）の司会，関西サッカー・ディベート学会春季研究会，立命館大学末川記念会館第3会議室，2004年5月17日
  22. シンポジウム：「80年代以降のアーサー・ミラー」の司会およびパネリスト，発表テーマ「大恐慌の叙事劇：『アメリカの時計』」，全国アメリカ演劇研究者会議・第21回大会，サンハイツホテル名古屋，2004年6月27日
  23. 「南太平洋諸国における環境問題と南太平洋環境計画（SPREP）の役割 — サモアを中心に—」，立命館大学資源・エネルギー・食料・環境問題研究会（修学館第2研究会室），2004年11月13日
  24. 「北欧の民族精神性からみる北欧共同体：『価値ニヒリズム』を中心に」小松優香（日本大学国際関係研究科後期課程）の司会，日本大学理工学部駿河台校舎1号館，2004年11月28日
  25. 「英語教育とディベート — 「サッカー・ディベート」の試み —」，第12回立命館大阪オフィス講座，2004年12月8日
  26. 「国会討論とディベート — 国会中継を十倍面白くさせる方法 —」松本道弘（国際ディベ



- ート学会会長)の司会, 日本比較生活文化学会第21回研究発表大会, 大阪学院大学, 2005年12月18日
27. 「日本語教育における異文化コミュニケーション — 台湾の日本語教育の現状を中心に —」張 恵蘭 (日本大学大学院国際関係研究科後期課程)の司会, 第22回日本比較生活文化学会研究発表大会, 神田外語大学, 2006年10月14日
28. 「Peter Shafferの劇における視線のポリティクス」山田 良 (関西学院大学研究科研究員), 「90年代以降のEdward Albeeの戯曲における「ダミー」の役割」(京都学園大学助教授)の司会, 日本英文学会関西支部第1回大会, 大阪大学 (豊中キャンパス), 2006年12月16日
29. 「日中間の生活習慣の相違と意思疎通の障碍」夏 剛 (立命館大学国際関係学部教授)の司会, 第3回PCAJ (日本比較生活文化学会)西日本定例研究会, 立命館大学諒友館720号室, 2007年4月28日
30. 「対談: 日常生活と古典芸能文化の出会い」安東伸元 (大和座狂言事務所代表)と松本道弘 (国際ディベート学会会長)の司会, 第23回日本比較生活文化学会研究発表大会, 立命館大学, 2007年12月1日
31. 「ブルネイ・ダルサラーム国の二言語現象と英語 — 過去と現在 —」芝田征二 (香川大学教授)の司会, 第24回日本比較生活文化学会研究発表大会, 日本大学 (三島キャンパス), 2008年11月29日
32. “Japanese Style Debate: Hexagonal Debate as a Means of Intercultural Communication” 松本道弘 (国際ディベート学会会長)との対談および司会, 立命館大学国際関係学部学術講演会, 諒友館962号室, 2008年12月22日
33. 「1929年アメリカ大恐慌とアーサー・ミラー」(定年退職記念講義), 立命館大学国際関係学部・立命館大学国際関係学会主催, 諒友館962号室, 2009年1月13日

## 7. 所属学会

- 1972年4月 日本アメリカ文学会会員 (現在に至る)
- 1972年5月 日本英文学会会員
- 1972年7月 中・四国アメリカ学会会員
- 1984年6月 全国アメリカ演劇研究者会議会員 (現在に至る)
- 1985年10月 日本比較生活文化学会会員 (現在に至る)
- 1995年4月 国際アーサー・ミラー学会名誉会員・学会設立委員 (現在に至る)
- 1999年3月 日本アメリカ学会会員 (現在に至る)
- 2002年4月 関西サッカー・ディベート協会代表理事 (現在に至る)

2004年4月 日本比較生活文化学会理事・事務局長（現在に至る）  
2005年6月 天理大学アメリカス学会会員（現在に至る）  
2006年10月 関西英文学会会員（現在に至る）